市民アンケート調査結果

2017年3月実施の市民生活アンケート

下呂市では、第２次総合計画に掲げる「もっと住みたい訪れたいみんなのふるさと わくわく下呂市」の実現を目指し、さまざまな取り組みを行っています。

市民の皆さんが日頃感じている事や市政に対しての意見を伺い、効果的に計画を推進していくためにアンケート調査を行いました。

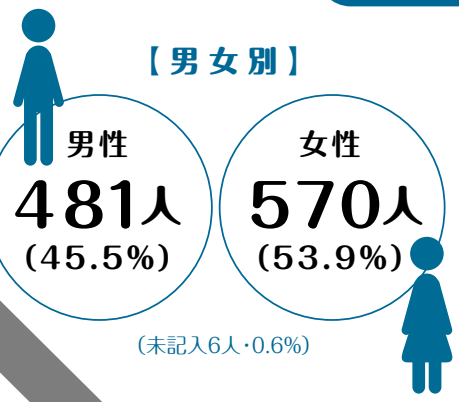
対象者は市内在住者の 20歳以上の人から無作為抽出した 2,000人で、回答は 1,057人、回答率は 52.9％でした。前年と比べて数値が向上した項目、悪化した項目、地方創生についての項目を抜粋してご紹介します。

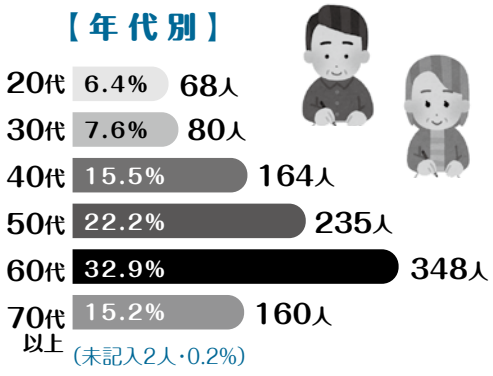
なお、アンケート調査の全ての結果は、下呂市ホームページで公開する予定です。

（回答割合の合計は、端数処理により 100%にならない場合があります）

【企画課】

回答者内容

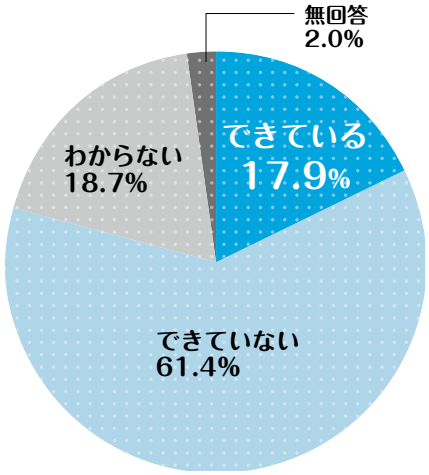




前年に比べて良くなった項目

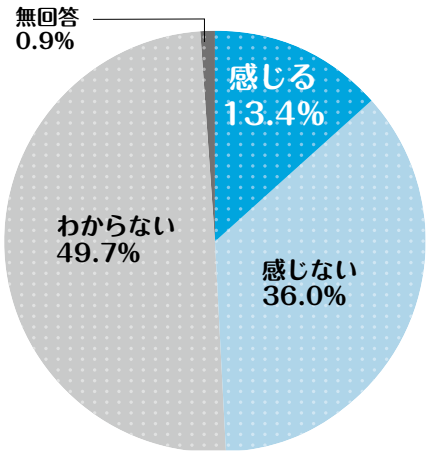
●あなたのご家庭では、災害に対する備えができていると思いますか？

	できている	できていない	わからない	無回答
H28年	17.9%	61.4%	18.7%	2.0%
H27年	15.3%	64.3%	18.9%	1.5%
増　減	↗2.6%	-2.9%	-0.2%	0.5%



今回のアンケート結果では「できている」という人は、前年度に比べて 2.6%増加しています。しかし他の設問の回答では、3日以上の食料備蓄をしていると答えた市民は 11.9%（前年アンケート時 11.0%）、3日未満の食料備蓄をしていると答えた市民は 33.3%（前年アンケート時 35.1%）となっており、合わせると備蓄をしている市民は全体の 45.2%と、前年に比べて逆に 0.9%減になっています。また、家具の転倒防止については 43.4%の市民が何らかの固定をし、避難所または避難経路の周知に関しては 90.3%の市民が理解していますが、数値的には横ばい状態です。平成 28年の熊本地震では、新耐震基準で建てられた住宅も度重なる余震で倒壊していることから、耐震性のない建物への対策や、身近でできる減災対策である家具の固定などの取り組みが進むよう、今後も啓発活動を継続して行っていきます。

●下呂市において、男女平等のまちづくりが進んでいると思いますか？

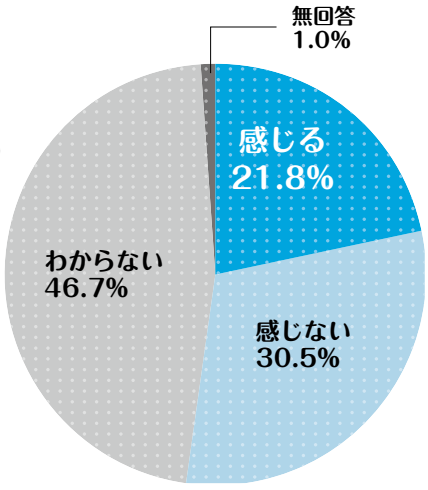


	感じる	感じない	わからない	無回答
H28年	13.4%	36.0%	49.7%	0.9%
H27年	6.7%	42.6%	49.9%	0.9%
増　減	↗6.7%	-6.6%	-0.2%	0.0%

男女平等のまちづくりが進んでいると「感じる」という人の割合は昨年よりも大きく増えましたが、全体では「感じない」という人が 4割近くを占める状態です。これまで講演会の開催などの PR活動を行ってきましたが、それだけでは抜本的な改善を図る事ができないため、「働く世代の女性」などターゲットを絞り込み、課題を整理した上で具体的な解決策に取り組みます。同時に、そこでの成功事例を波及させながら改善を図っていきます。

●あなたにとって必要な行政サービスが、確実に提供されていると感じますか？

	感じる	感じない	わからない	無回答
H28年	21.8%	30.5%	46.7%	1.0%
H27年	17.9%	32.2%	48.4%	1.6%
増　減	↗3.9%	-1.7%	-1.7%	-0.6%



「必要な行政サービスが確実に提供されている」と感じる市民の割合は、昨年と比較して 3.9%上昇したものの、「わからない」が全体の 46.7%、「感じない」は 30.5%となっており、依然として低い水準にとどまっています。また、年代別の集計では「感じる」という人の割合が、「感じない」という人を上回っているのは、男性の 70歳以上と女性の 60歳台に限られており、若年層を中心に、行政サービスの提供が不十分だと思う人が多いという結果となりました。今後は、本アンケートの自由意見欄での意見も参考にしながら、行政サービスの充実と市民満足度の向上に努めます。